

単元名

国際社会の仕組み

1 単元のねらい

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力が欠かせないことが分かり、国際社会の仕組みを理解することができる。また、世界の安全保障の中核となる国際連合について関心をもち、具体的な活動について資料をもとに調べるとともに、世界平和に貢献していくあり方についても考えることができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単 元 の 評 価 規 準	<p>国際連合の仕組みや課題、国際社会の動きについて、具体的事例をもとに理解している。</p> <p>世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間の相互の尊重と協力、国際機構の役割が大切であることを理解している。</p>	<p>主権国家の位置付けや国際連合の働き、国際社会の動きの背景や課題などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>国際連合の仕組みや地域主義、新興国の動きなどを理解するために、情報を適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>

●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

評価/時数	1	2	3	4	5	6
知識・技能		●	●	●		
思考・判断・表現					○	○
主体的に学習に取り組む態度	●					○

3 単元構造図（全6時間） ☆獲得する認識

<p>国際社会の 仕組み</p>	<p>単元学習前の生徒の意識 これまでの学習で、社会生活におけるルールや法の必要性は分かった。これを、国際社会という視点で考えてみると、歴史や地理で学習したように地域紛争や領土問題などのトラブルがあり、国同士のルールづくりや問題の解決は難しそうだ。</p>
<p>国際社会の仕組みは、どうなっているのだろう。</p>	<p>第1時 国際社会の仕組みの基礎【●主体的に学習に取り組む態度】 世界には地球規模で考えなければならない課題が多く存在している。持続可能な社会を実現するために現代の私たちは、国家間の相互の協力が必要である。地球規模の課題を解決して、平和な国際社会を実現していくために私たちができることを考えていきたい。</p>
	<p>第2時 国際社会における国家【●知識・技能】 国家が尊重し合うために何が必要だろうか。</p> <p>共生社会を築くために基本的人権の尊重や義務の遵守が大切だった。同じように国同士が国際社会の中で平</p>
	<p>第3時 領土をめぐる問題の現状【●知識・技能】 日本は領土をめぐるどのような課題をかかえているのだろう。</p> <p>日本固有の領土をめぐる、現在でも周辺諸国との間で問題を抱えていた。日本は国際社会の中で平和を維</p>
	<p>第4時 国際連合の役割【●知識・技能】</p> <p>世界の国々は国際連合を組織することで世界平和の維持と人類の暮らしの向上をめざしていることが分かった。国連の活動がなければ、世界は今よりも紛争や飢餓が激発して、多くの死者や難民を出していたのかもしれない。しかし、まだ紛争や飢餓の問題など解決すべき問題はたくさん残っている。国連の課題や、国連に求められている事柄は何だろう。日本の果たすべき役割は何だろう。</p>
	<p>第5時 地域主義の動き【●思考・判断・表現】 地域主義とは、どんな動きなのだろう。</p> <p>☆ヨーロッパ連合(EU) ☆ユーロ ☆地域主義(リージョナリズム)</p> <p>今、地域同士のつながりを深め、1つの国のように活動していく地域主義が広がっている。地域主義によって、異なる歴史、文化、言語の国々が一つになり、平和に向けて進められている。日本も、地域主義の流れに乗って、他の国との関係を深めている。しかし、すべて上手くいっているというわけではない。様々な問題も起きているので、今後解決しなければならない。</p>
<p>第6時</p>	<p>グローバル化の中で、国際関係はどのように変化してきただろうか。</p> <p>経済のグローバル化が進んだことで、他国の存在なしには成り立たない。それゆえ、一国の問題はその国だけでは解決できず、</p> <p>国際社会が協力して取り組む必要がある。現在の国際社会において、途上国と先進国の経済格差が広がること</p>
<p>単元学習後の生徒の意識 主権国家の意味が分かり、他国を尊重することは大切である。その上で、国際法や国際連合などの機関が中心となって、国際社会の諸問題の解決に取り組む必要がある。現在、地域主義によって生じる対立や途上国と先進国の間で拡大する経済格差などの問題が見られ、戦争や紛争の一因になっている。解決に向けた努力が求められている。</p>	

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料及び指導・援助
1 SDGsから世界の課題の果敢に立ち向かう	地球規模の課題について考える活動を通して、世界が多くの課題に直面していることに興味をもち、解決するための仕組みや取組について、考えることができる。	世界の抱える課題について考えよう。	世界の抱える課題について考え、国際社会の仕組みを理解しようという追究意欲がもてている。 (主体的に学習に取り組む態度)	◇SDGsの一覧表(教科書) ・イラストが表している内容と具体例がつながるように支援をする。 ・世界の抱える課題が多くの人に関係していることを連想できるように助言することで、世界の抱える問題の特色を考えられるようにする。
		<ol style="list-style-type: none"> 教科書を見て、SDGsについて確認する。 ・国連の加盟国が17の目標を立て、2030年までに達成すると合意している。 ・世界は様々な種類の問題に直面している。 興味・関心のある課題を選択して、その解決方法について考える。 ・国同士で協力して解決する。 ・先進国が途上国の支援をして解決をする。 課題解決の方法を交流し、単元の課題を設定する。 ・世界の抱える課題を解決するためには、国同士の協力が必要だ。 ・国際的な組織を作ること、課題解決に向かうのではないか。 《単元を貫く課題》 		
		国際社会の仕組みは、どうなっているのだろう。		
		自分の国のことばかりを考えていたら、地球規模の課題は解決することができないのではないか。このままではいけない。世界平和のために、国際社会の仕組みを理解し、問題をみんなで考えていきたい。		
2 国際社会における国	世界平和を築くための国際社会のルールを教科書から調べることを通して、国家間の相互の主権とその尊重、国際法の存在に気づき、それらの遵守が大切であると理解している。 ☆主権 ☆国民 ☆主権国家 ☆領域 ☆排他的経済水域 ☆国際法 ☆国際協調	<ol style="list-style-type: none"> 前時をもとに本時の学習課題を設定し、追究する。 国家が尊重し合うために何が必要だろうか。 世界には190以上の国がある。 ・互いの領土を認め合う。 ・取り決めた条約は必ず守る。 教科書から、国際社会のルールについて調べる。 《主権の尊重》 ・内政不干渉の原則 ・主権平等の原則 《国際法を守る》 ・国際条約・国際慣習 教師の説明を聞き、調べた内容を確認する。 国家として十分機能していない国があることを教科書から調べる。 本時のまとめをする 	主権の定義や国際社会で守るべきルールについて理解し、身に付けている。 (知・技)	◇領域と経済水域(図) ◇日本の領域と経済水域(地図) ◇日本の南端にあたる沖ノ鳥島(写真) ◇オリンピックの表彰式援助(写真) ・主権や国際法については、具体例を示すことで、理解できるようにする。
		共生社会を築くのに基本的人権の尊重や義務の遵守が大切だった。同じように国同士が国際社会の中で平和を維持し共生していくのには、相互の主権の尊重や国際法の遵守が欠かせない。		

<p>3 領土をめぐめる問題の現状</p>	<p>竹島、北方領土、尖閣諸島をめぐめる問題の起こった経緯や現状を教科書から調べる活動を通して、日本固有の領土をめぐって、周辺諸国との間で問題を抱えており、平和的解決のために様々な取組を行っていることを理解している。</p> <p>☆竹島 ☆北方領土 ☆尖閣諸島</p>	<p>1 日本の抱える領土問題について知っていることを交流する。 ・竹島は韓国に不法に占拠されている。 ・まだまだ解決されていない課題が多く残っている。</p> <p>固有の領土をめぐってどのような問題を抱えているのだろう。</p> <p>2 教科書、資料集から領土をめぐった問題について、経緯や現状を調べノートにまとめる。 竹島：平和条約が発効する直前の1952年1月、韓国は国際法に反して一方的に漁業管轄権の範囲を示す線を設定した。これ以降、韓国は竹島を不法に占拠している。日本は国際司法裁判所に判断を委ね、平和的に解決するという提案を行っている。 北方領土：日本が降伏した後、ソ連の後を継いだロシアが不法に占拠した状態が続いている。1993年の東京宣言でロシアが領土問題を解決し、平和条約を結ぶための交渉に合意し、現在も交渉が続いている。 尖閣諸島：1971年に中国が公式に領有権を主張し始めた。中国が日本の領海に侵入する例が多数起こっていることに対し、外交的な努力を続けている。</p> <p>3 海外の領土問題の解決策について説明を聞く。 4 本時のまとめをする。</p>	<p>日本が抱える領土問題の経緯や現状について理解し、身に付けている。 (知・技)</p>	<p>◇領域と排他的経済水域(図) ◇竹島(写真) ◇歯舞群島(写真) ◇尖閣諸島(写真) ・領土問題の現状については、具体的例を示すことで、理解できるようにする。 ・領土問題の解決方法については、海外の領土問題の解決策の具体例を示すことで、考えられるようにする。</p>
		<p>日本固有の領土をめぐって、現在でも周辺諸国との間で問題を抱えていた。日本は国際社会の中で平和を維持し共生していくために、平和的な解決に向け努力をしている。</p>		
<p>4 国際連合の仕組み</p>	<p>国際連合の仕組みやはたらきを調べることを通して、世界の国々が国際連合を組織することによって、世界の平和と安全の維持、世界の人々の暮らしの向上をめざして努力していることを読み取ることができる。</p> <p>☆国際連合 ☆総会 ☆安全保障理事会</p>	<p>1 地域紛争解決に努力していた国連平和維持軍や国連について知っていることを交流する。 ・アメリカやロシアには拒否権がある。 ・平和維持軍に日本も参加するようになった。</p> <p>国際連合の仕組みやはたらきを調べよう</p> <p>2 教科書、資料集から国際連合の目的や仕組み、はたらきを調べノートにまとめる。 目的：世界平和の維持 仕組み：総会、安全保障理事会、経済社会理事会 専門機関、UNHCRなど 働き：世界の平和と安全の維持 世界の人々の暮らしの向上</p> <p>3 国連の貢献について具体的な説明を聞く。 4 本時のまとめをする。</p>	<p>国際連合の目的と組織、役割について適切に情報を収集し図表を作成している。 (知・技)</p>	<p>◇国連児童基金による学校への援助(写真) ◇国連難民高等弁務官事務所による食糧支援(写真) ◇世界保健機関による医療支援(写真) ◇国連加盟国数の増加(グラフ) ◇国債連合のおもなしくみ(図) ◇国連の通常予算の分担率(グラフ) ・国連の図の必要な箇所を示すことで、適切な内容を読み取れるようにする。</p>

と 役 割	☆専門機関 ☆拒否権 ☆平和維持活動	<p>世界の国々は国際連合を組織することで世界平和の維持と人類のくらしの向上をめざしていることが分かった。国連の活動がなければ、ひょっとすると世界は今よりも紛争や飢餓が激発して、多くの死者や難民を出していたのかもしれない。しかし、まだ紛争や飢餓の問題など解決すべき問題はたくさん残っている。国連の課題や、国連に求められていることがらは何だろう。日本の果たすべき役割は何だろう。</p>		
5 地 域 主 義 の 動 き	<p>地域主義について資料から読み取り、話し合う活動を通して、世界にはさまざまな地域間のまとまりがあることに気づき、平和のためには地域間での連携が必要であると考え、表現することができる。</p> <p>☆ヨーロッパ連合(EU) ☆ユーロ ☆地域主義(リジョナリズム) ☆ASEAN(東南アジア諸国連合) ☆アジア太平洋経済協力会議</p>	<p>1 EUやASEANについて、知っていることを発表する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域主義とは、どんな動きかのざら</p> <p>2 EUやASEANについて調べ、交流する。</p> <p>EU：経済を中心に統合を目指す 共通通貨ユーロを導入 外交・安全保障・治安対策でも共通の政策を強化 主権の多くをEUにゆだねられる</p> <p>ASEAN：経済・政治・安全保障の分野で協力</p> <p>3 教師の説明を聞く。 4 本時のまとめをする。</p>	<p>それぞれの地域間のまとまりがあることで地域間の問題を解決していることを多面的・多角的に考察している。 (思・判・表)</p>	<p>◇EUの拡大とユーロ導入国(地図) ◇世界のおもな地域主義の動き(地図) ◇EU, ASEAN, NAFTA, 日本の比較(グラフ)</p> <p>・地理の学習を思い出すことで、地域間のまとまりの利点をかけるようにする。</p>
		<p>今、地域同士のつながりを深め、一つの国のように活動していく地域主義が広がっている。地域主義によって、異なる歴史、文化、言語の国々が一つになり、平和に向けて進められている。日本も、地域主義の流れに乗って、他の国との関係を深めている。しかし、すべて上手くいっているというわけではない。様々な問題も起きているので、今後解決しなければならない。</p>		

<p>6 新興国の台頭と経済格差</p>	<p>新興国の台頭など国際関係に変化が生じていることに気付くことができる。そして、それに伴って経済格差の拡大という新たな問題も起きていることを考え、表現することができる。</p> <p>☆相互依存 ☆南北問題 ☆新興工業経済地域 ☆南南問題</p>	<p>1 新聞記事から世界の結びつきについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の企業が海外に多く工場を建設している。 ・海外工場が被害を受けると、日本も大きな影響がある。 ・グローバル化で、他国の存在なしには成り立たない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グローバル化の中で、国際関係はどのように変化してきただろう</p> </div> <p>2 第二次世界大戦以降の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途上国はモノカルチャー経済から脱していない。 ・先進国との格差が拡大している。(南北問題) ・1960年代以降、工業化が進んだ国がある。(NIES) ・2000年代に入ると、広大な国土と資源、人口によって経済成長する国がある。(BRICS) <p>3 調べたことを交流する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>途上国と先進国間の経済格差や途上国間の経済格差が広がっている様子について調べ、まとめている。 (思・判・表)</p>	<p>◇タイで発生した洪水を報じる新聞記事</p> <p>◇主な国の経済成長率(GDPの増加率)の推移</p> <p>◇中国のシャンハイ(上海)の高層ビル群の写真</p> <p>◇インドのムンバイの様子の写真</p> <p>・地理の学習を想起させ、経済成長が著しい国とそうでない国の様子を比較できるようにさせる。</p>
<p>経済のグローバル化が進んだことで、他国の存在なしには成り立たない。それゆえ、一国の問題はその国だけでは解決できず、国際社会が協力して取り組むことが求められている。現在の国際社会において、途上国と先進国との経済的な格差が広がる南北問題や南南問題とよばれる途上国間での格差も生じており、国際的な課題である。</p>				